

71期生 進路だより No. 7

『いつか晴れるよ どんな空でも』

修学旅行で考えてほしいこと

楽しみにしていた修学旅行の出発まであと2日となりましたね。準備は進んでいますか。みんなが良かったといえる修学旅行にするために協力すれば、本当に一生の思い出になる素晴らしい修学旅行になると思います。

この修学旅行で学ぶことはいろいろあります。

首都であり国際都市である東京を直接体験すること。

体験学習を通じて肌で大自然の壮大さに触れること。

そして、71期生全員が共同して楽しかったという思い出をつくるということ。

すなわち、一人一人がその行動を自覚することで、集団としての力として高めていくことなどです。

どれも本当に大切な事です。

でも、それに加えて**進路**という視点からもう一つ学んでほしいことがあります。

**それは「働く人々の姿を学ぶ」
ということです。**

働く人々とは、職業として働いている人という意味です。修学旅行ではいろいろな形で働いている人たちのお世話になる事になります。

旅行会社の添乗員さん、写真屋さん、新幹線の運行に携わる人、バスの運転手さんやガイドさん、ホテルの従業員のみなさん。体験学習のインストラクターの方。ディズニーランドの従業員のみなさん。君たちの食事を作っている調理師の方。売店の従業員の方々。そして君たちの見えないところで働いている人々を含めると実に多くの人々が、71期生の修学旅行を成功させるために働いていてくれます(先生達の事も忘れないでね！)。

こうした方々が「なぜ人は働くのか」といえば、それはもちろんお金を稼ぎ、日々の生活を営んでいくためです。でも、ただそれだけのためでしょうか。

君たちの修学旅行を成功させるために働いている人たちは、君たちを陰で支えることを喜びとして働いているのです。

働くことを難しい言葉で言うと「労働」といいます。社会は多くの人々の労働で成り立っています。君たちが買うお土産も、新幹線が安全に運行するというのも、ホテルの人々の様々な配慮も、労働を通して産み出された成果です(君たちは、すでに去年の職業体験で、社会は多くの人々の様々な労働による成果によって成り立っていることを勉強しましたね)。

もちろん、お金を出せばこうした成果を受け取ることができます。こうした行為を消費といえます。でも人間は受け取る立場(消費)だけにいるわけではありません。受け取るということとともに与える立場(労働)にも立たなければいけません。そうでなければ社会は成り立ちません。

人間というのは与える立場(労働)にたつことによって社会とつながり、そして社会を支えているのです。社会を支えるということによって、自分自身を活かすこと(自分の能力を伸ばす)、これが労働ということです。

今は働く人々の成果を受け取る側ですが、やがて71期生の一人一人が何らかの労働によって社会を支える側に立っていきます。

「受ける(消費)」の側ではなく、「与える(労働)」立場を知ること。それも修学旅行の目的の一つです。

学力診断テストとチャレンジテストの準備も忘れずに!

明後日から修学旅行です。修学旅行のことが気になって授業に集中できない人もいるのではないのでしょうか。修学旅行から帰ってくると3日後に学力診断テスト(6月16日)、その5日後にチャレンジテストがあります。テスト前にあわてるのではなく、今からきちんと計画を立てて、試験に臨んでください。

(うらへ)